

令和6年度 第2回(第13期第3回)八尾市環境審議会 会議録

○日 時 令和6年10月3日(木)午後1時 ～ 午後2時

○場 所 Zoom によるリモート会議での開催

○出席委員 宇野委員、曾和委員、中田委員、西村委員、花田委員、原委員、前迫委員、
竹元委員、中島委員、安木委員、西川委員

○欠席委員 平栗委員、岡橋委員

○事務局 環境保全課北村課長、京谷課長補佐、武藤課長補佐、
新葉係長、山本主査、岡崎副主査

○傍聴者 Zoom によるリモート会議のため傍聴者席を設置せずに開催

○当日次第

1 開会

2 審議・報告事項

- ・第2回温暖化対策部会の報告
- ・八尾市環境総合計画改定素案の確認

3 その他

4 閉会

○【配付資料一覧】

資料1:八尾市環境総合計画改定素案

(参考資料)

参考資料1: 第1回温暖化対策部会での意見についての回答

参考資料2: 八尾市環境総合計画改定素案(基本方針Ⅰ)

○議事の概要及び発言の趣旨

1 開会

2 審議・報告事項

審議・報告事項

・第2回温暖化対策部会の報告

参考資料1及び参考資料2に基づき事務局にて説明。

<意見等>

委 員 民生部門である家庭と業務のところ削減が進んでいないことがはっきり示された。その取り組みをどのように強化するか、委員からも色々のご意見をいただいた。運輸部門も同じことである。緩和に関しては、非常に今、危機的な状況であり、その対応が迫られているというところで、今後の計画の改定においても、何らかの形で市民に示したいという意見もあった。報告の補足をさせていただく。

・八尾市環境総合計画改定素案の確認

資料1八尾市環境総合計画改定素案に基づき事務局にて説明。

<意見等>

委 員 19 ページの『脱炭素型の生活・事業活動の推進』の中で『再生可能エネルギー・未利用エネルギーの利用の拡大』の具体的な取り組みの最後に、水素エネルギーについて啓発を行いますと記載されている。近年、企業も水素について力を入れているところもある。水素エネルギーについての啓発方法を具体的にどのように考えているのか。水素と言ってもメリットもあればデメリットもある。今後これは非常に大事なエネルギーになると思う。具体的な啓発方法を考えていただきたい。

事 務 局 水素に関する啓発について、現時点で実施しているものを紹介する。商業施設でイベントで燃料電池自動車の展示がある。その中で燃料電池での水素エネルギーについて周知し、また、啓発や啓蒙活動をしているところである。また、万博の後に、水素エネルギーについて色々な取り組みや活動が事業者の方から出てくると思うため、そのあたりも踏まえて今後の啓発が進んでいく可能性があると考えている。

- 委 員 水素については水素ステーションを作るにあたって非常に莫大な資金が必要だと聞いている。そこで、最近、自治体で資金繰りの方法として、グリーンボンドという債券を拡大させている自治体が増えてきている。このグリーンボンドの採用については、八尾市としてどのように考えているのか。
- 事 務 局 グリーンボンドについては現状で何かを取り組むということはない。手法の1つとしてはあると認識しており、施策や啓発、啓蒙活動をしていく中で選択肢としてあがってくるものであると考えている。
- 委 員 事業者の取り組みの中に「検討します」という文言が幾つかある。例えば、22 ページの「ケールスポット提供について検討します」や、32 ページの「民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域について支援を検討します」について、検討するという意味は、今何も案がなく、今後検討するということなのかと思うが、八尾市環境総合計画という非常に大きな計画であるため、検討して何かすると言うよりは、促進していく。進めていく等、具体的なものである方がいいのではないかと思う。例えば、32 ページの民間の取り組み等によるところだと、自然共生サイトが次年度から法制化され、これまで個々に対応していたものが行政もサポートしながら、自然共生サイトに手を挙げていくことが法案として通っている。検討すると書かれているニュアンスについて、少し消極的な印象を受けるので、どの程度検討しているのかについて教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。
- 事 務 局 その点については、再度中身を精査し、推進すべき箇所については表記を改めたい。32 ページで記載している内容で、「生物多様性と保全が図られている区域について支援を検討します」との記載や、「八尾市版生物多様性地域戦略の策定について検討します」というものもある。検討するといった表現であるが、現状では、情報収集を行い、何ができるかを検討する旨、記載している。捉え方によっては消極的に見えるかもしれないが、今の方針としてはそのような形で考えている。
- 委 員 仮案ではなく、かなり具体化されている。情報収集等を実際に今検討していることに対して検討していると書かれている旨理解した。案があり、それを検討して前に進むものだと分かるが、市民が読まれた時に、検討するという文言は、これから感があるため、実施に向けて推進していく等、言葉を補い実現可能な取り組みをしていることが伝わるようにしてはどうか。

- 会 長 22 ページで、デコ活という言葉がある。19 ページに注釈があり、脱炭素型ライフスタイルということで定義が書かれている。そして 22 ページには絵でその内容が示されている。このデコ活は何の略か。前回の審議会でも発言したが、この環境の領域では、次々に新しい言葉が出てきて何か新しいことをしないといけない印象を受ける。その都度、注釈がつけられる。注釈や語句説明は良いことだと思っているため、今回も丁寧に説明していただきたい。デコ活は見る限り日常的な市民の生活に直結するような提案のようである。そういった点もわかりやすく、国民運動と書いてあるが、何をすればいいのか、丁寧に説明していただきたい。
- 事 務 局 デコ活について、デコ活のまず「デ」というのが Decarbonization ということで、脱炭素の部分の指している。「コ」の中に Eco が入っており、脱炭素とエコで、「デコ」な生活となっている。このデコ活、しっかりと市民の方々に認識を深め、周知していく必要があるため、わかりやすい表現を考えていく必要があると思う。
- 委 員 デコ活であるが、政府がこれまでクールチョイスというのを進めてきた内容は同じである。二酸化炭素をなるべく出さない日常生活を送ろうといった運動を国民運動にしようということで、ネーミングがクールチョイスからデコ活に変わった。それに合わせて、これまでクールチョイスと表現していたところをこの環境総合計画ではデコ活に変更した経緯がある。19 ページのデコ活の記載の箇所で、政府の説明を引用する等、その内容を脚注に記載すればいいのではないか。
- 委 員 デコ活にも関係してくる。今までは CO2 排出というと、産業部門や民生部門等、部門が分かれている。以前の温暖化対策部会の報告でもこの削減量を見ている。データとしてはそうであるが、生活を考えていくと、地球温暖化に関わるものは住宅だけではなく、例えば衣類等、生活スタイルそのものを全体で見た時に、自分たちは何を変えていけるかを見る方向になっているような気がする。環境省の白書の方では、家庭と家計から出る CO2 排出量は全体の6割とのキーワードが出ている。つまり、住宅や産業だけではなく、例えば車を使う等、消費生活そのもので消費される CO2 の6割は我々が負っていることをもっとアピールする。理解した方が自分事として考えるのではないかと思う。それに対応して、例えば3ページや基本方針のところで、温暖化進行のところにその生活の中で出てくる家計による CO2 排出量が6割を占めている事実を書いてはどうかと思う。今のデコ活の話もより自分ごとになるのではないか。
- 事 務 局 家庭の方、消費者の方にしっかりと温暖化についての現状を伝えていくことは非常に重要だと思っている。ご意見いただき、環境総合計画の中でどこまで表現できるのか、再度考え

たい。また、具体的な取り組みについては、今後また温暖化対策部会を開催させていただく中で、何が効果的なのかを事務局から提案させていただきながらご意見いただき、進捗管理と評価をしていきたいと考えている。

会 長 今の発言の中で家庭からの排出量が6割との話であったが、基本計画の中では、5つの部門で排出量の削減の状態を表している。ここで家庭部門からの排出とされている排出量と、我々の生活全体からの排出量が6割を占めているという指摘とは、ずれているように感じる。

委 員 ずれていると思う。この部門分けではない環境省のページがある。どこかで共有できればいいと思う。いわゆるその産業部門や運輸部門といった分け方ではない表記がある。

会 長 6割というのは、我々の生活からいろんな形で CO2 の排出につながっているという指摘である。その関係も含めて記述を検討いただけるのであれば、検討していただきたいと思う。火力発電所が一番大きな排出量実績があると思っていたが、そういうわけでもないのか。その点教えていただきたい。

事 務 局 発電所からの二酸化炭素は実際に出ている。今八尾市だけでなく、日本国全体で温室効果ガスがどれだけ出ているのかを推計する際に間接的な評価をしている。具体には、家庭から出る二酸化炭素を算出する際に、電気の使用量を見て、その電気は実際どう作られたのかを過程を追って調べていく。過程を追っていき、電気の割合が原子力発電、火力発電水力発電等で何パーセントなのか。温室効果ガスの排出係数を出して電気の使用量とその係数から、家庭での二酸化炭素を算出している。実際に電気を使う際にはその家から二酸化炭素が出ているわけではない。発電した元のところを追って、実際その電気を使った分を推計をしている。

会 長 各部門の排出量がどういうふうな計算式で導かれているかというのも、難しく、専門的で十分には理解していない。ただ素朴な疑問として、最初の温暖化対策部会の報告でもあったが、各部門の図では直近の数値が増加しているところが気になる。全体に削減目標を決めながら直近では増加している。このあたりはどう考えているのか。

事 務 局 会長のいただいたご意見も温暖化対策部会の中でもいただいている。例えば、コロナで本来経済活動が停滞し、縮小する中で、世界的にも全国的にも二酸化炭素は減っているものの、八尾市ではその年度は高くなっているといったご意見を受けた。ここについての要因も八尾市の方で推察する部分はあるが、それが十分に分析できていない点もあるため、現状

お答えできる明確なものはないが、今後分析して調査していく必要があると考えている。減少したところも含めて増加したところの要因を今後しっかり詳細に見ていきたい。

委員 先ほどデコ活もそうであるが、ライフスタイルに関わる啓発や情報の周知といった話が計画の中ではしっかりと書かれている。それ自体はいいと思うが、先ほどの意見や部会でも出た意見でも、民生部門それから運輸部門に関して目標値と実績値が乖離している。ライフスタイルに関わるような民生の部門では、情報の共有や啓発だけではうまくいかない要素があると思う。人によるとは思うが、自分たちのライフスタイルの変革のインセンティブがどこで生まれているのかが、肝になってくると思う。そういう意味では情報が共有されていくだけでは不十分だと思う。結果を見て効果の分析や調査、特に民生部門については重要である。ライフスタイルの変革に関わる話であるため、その点も本来は触れた方がいいのではないかな。啓発して見ていき、効果と分析も行い、どこにインセンティブがあるのか、いろんな施策について、実際に効果的の有無を分析、調査していく、そういう意向や趣旨を明示した方が良いのではないかな。事務局にもぜひお聞きたい。「調査を行い、効果を分析し、改善していく」旨を追記することは可能なのか。その旨を示していく方が積極的に変革していくことが伝えられると思う。

事務局 計画のどこかで表現できると思うが、どの部分で表現するか考えていきたい。例えば、計画の推進方法の記載が環境総合計画の中にはあるため、施策の中で表現するのか、進捗管理をする中でそういった趣旨を盛り込むのか選択の余地はある。どのような表現が計画上で盛り込めるのか、そしてどの箇所なのか、考えたい。

委員 検討いただきたいと思う。温暖化対策の話だけではないと思う。廃棄物を出さないといった話もライフスタイルそのものの話であるため、施策の効果があつたのかどうかの確認や検証は必要であり、計画の中で適切な箇所での記載を検討いただくといいと思う。

委員 21 ページの中で、気候変動の適応の推進の中にある市民の取り組みの中で、『気候変動に伴い、今後増加すると見込まれる自然災害に備えるため、家庭内での防災備蓄や、災害時の行動訓練の実施等、防災に関する準備を高めるよう努めます。』と記述されている。八尾市の全体の各部署との連携でどのように進めていくのか。

会長 前回の審議会でも関係部局の連携の話は出ていたかと思う。

事務局 庁内で横断的に連携しているものもあるが、この危機管理災害対策の部分については、個

別事案ごとで影響しているという関係で、横断的組織の中で環境と災害対策の部局で定期的な議論を交わしたことはない。熱中症やゼロカーボンに関しては連絡会議がある。そういった部分ごとで連携して会議を行っているものもある。

会 長 改定を予定している部分は、我々がいただいている資料で、網かけの部分である。資料をいただいたのが 1 日前であったので、十分に検討する時間もなかったと思う。改めて見ていただき、何かお気づきの点があれば、事務局に意見を寄せていただきたい。

・その他

委 員 21 ページの機構変動への適応の推進の箇所で文言を変えられる箇所があるということで、修正した資料は送付いただけるのか。

事 務 局 改めてお送りさせていただく。

事 務 局 次回の環境審議会の予定をお伝えさせていただく。次回は 12 月での開催を予定している。今回の内容は環境総合計画の改定案の提示を予定している。

曾和会長 今回示された素案についての意見や気づいた点があれば事務局までお知らせいただきたい。改定案が 12 月に出され、それをもって承認となる。事務局には 12 月の審議会の前にある程度の余裕を持って案を送付していただきたい。

閉 会